

Title	京大東アジアセンターニュースレター 第488号
Author(s)	
Citation	京大東アジアセンターニュースレター (2013), 488
Issue Date	2013-10-07
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/179013">http://hdl.handle.net/2433/179013</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

## 目次

- 自動車シンポジウムのお知らせ
- 中国経済研究会のお知らせ
- レポート執筆者のご紹介
- 「ソーシャル・ビジネス」は貧困撲滅の切り札か
- 上海街角インタビュー①
- 【中国経済最新統計】

主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学ものづくり経営研究センター

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター協力会

## アジア自動車シンポジウム

## 黎明期のミャンマー自動車市場

—進出すべきか否か、その判断基準を考える—

■京都会場 2013 年 12 月 7 日(土) 13 時  
京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホール

■東京会場 2013 年 12 月 9 日(月) 13 時  
京都大学東京オフィス(品川インターシティA棟 27 階)

総合司会

13:00-13:30

挨拶 京都大学大学院経済学研究科長 植田和弘  
東京大学社会科学研究所教授 丸川知雄

13:30-14:30

京都大学大学院経済学研究科 教授 塩地 洋 日系企業から見たミャンマー自動車産業(仮題 以下同)

14:30-15:00

鹿児島県立短期大学 講師 山本 肇 自動車産業—政策・発展史・今後の展望

15:15-15:45

事業創造大学院大学 教授 富山 栄子 輸入規制を受けている新車市場

15:45-16:10

住友商事 自動車米州アジア部 木村 将裕 金融事情と販売金融現況

16:10-16:35

慶應大学経済学部 准教授 三嶋 恒平 オートバイ流通の実態

16:35-16:55

16:55-17:00

閉会挨拶

17:15-18:45

懇親会 参加費 2000 円(協会の会員は無料)

司会 京都大学経済学部特任教授/東アジア経済研究センター協会の理事 宇野輝

開会挨拶 京都大学東アジア経済研究センター長/京都大学経済学部准教授 矢野剛

閉会挨拶 京都大学東アジア経済研究センター協会の会長/京都大学経済学部名誉フェロー 大森経徳

**参加の御申込は、塩地 [shioji@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:shioji@econ.kyoto-u.ac.jp) に会場名、氏名・所属、懇親会出欠を御連絡ください。  
東京会場は定員100名、京都会場300名です。お早めにお申し込みください。**

\*\*\*\*\*

## 「中国経済研究会」のお知らせ

2013年度第4回（通算第36回）の中国経済研究会を下記の内容で開催することになりましたので、大勢の方のご参加をお待ちしております。

### 記

時 間： 2013年10月22日（火） 16:30－18:00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館・地下1階みずほホール

報告者：大原盛樹（龍谷大学経済学部准教授）

テーマ： 「オートバイ流通ネットワークに関するインドと中国の比較研究」

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行います。2013年度における開催（予定）日は以下の通りです。

前期：4月23日（火）、5月21日（火）、~~6月18日（火）~~、7月23日（火）

後期：10月22日（火）、11月19日（火）、12月17日（火）、1月21日（火）

（この件に関するお問い合わせは劉徳強（[liu@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:liu@econ.kyoto-u.ac.jp)）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）

\*\*\*\*\*

## <新連載・連載復活紹介>

東アジア経済研究センター協会の大森会長が一方でその副会長を務める大阪能率協会OMAアジア・中国事業支援室副室長の福喜多俊夫氏より、今後上海街角インタビューシリーズとして中国事情報告を連続的に御執筆頂ける予定となりました。福喜多氏は長年アジア・中国関係の業務及びコンサルタントを務めてきた方です。また諸事情により寄稿が一時中断していた小島協力会副会長からも、以前よりもペースを落としたかたちではありますがアセアン諸国・バングラデシュ経済事情の原稿を頂けるようにもなりました。今後とも協力会会員様からの諸報告、エッセイ等のご投稿を募る予定であります。執筆していただける協力会会員様は [shkyoryokukai@yahoo.co.jp](mailto:shkyoryokukai@yahoo.co.jp) (協力会事務局) までご一報頂ければ幸いです。

(文責 京大東アジア経済研究センター 矢野剛)

## レポート執筆者のご紹介

京大東アジア経済研究センター協会  
会長 大森経徳

日頃は京大東アジアセンター及び同協会をご支援いただき誠に有難うございます。

さて、今週号のニュースレターをお届けするに当たり、皆さまに嬉しい且つ重要なご報告を2つさせていただきます。

その第一は、永年中国・アジア各国事情につき、現場への実地調査に基づく詳細な諸報告をいただき京大東アジアセンターニュースレターの価値と評判を大いに高めていただいていた株式会社小島衣料の小島オーナー・協会副会長から諸般の事情で7月から原稿をいただけなくなっていました。今回3カ月振りに、小島レポート「ソーシャル・ビジネスは貧困撲滅の切り札か」という興味ある重要報告をいただきました。この記事は、去る3月に私が「世界の貧困と格差解消策を求めて」を寄稿した時、その最後にいずれ小島副会長より「ソーシャル・ビジネス・ダッカ報告」をこのニュースレター紙上でご報告いただけるであろう、乞うご期待！！と書いていたものでもあります。極めて興味ある重要報告で、小島副会長は、今、私財を投じグラミン銀行のユヌス博士以上の『激動するアジアを往く』の伊藤彰一氏のグラミン銀行訪問記をご参照下さい。)「ソーシャル・ビジネスの発展型」をご自身で社会実験として追求・試行しておられるとのことですので、そのご成功をお祈りすると共に第2報、第3報を期待したいと思います。乞うご期待！です。

第二の報告は、このところしばらく、小島副会長に続く「中国事情」の報告者が見当らず、読者の皆様にご迷惑をおかけしていましたが、この度適任者が見つかりましたので報告させていただきます。

その方は、現在社団法人大阪能率協会(OMA)アジア・中国事業支援室副室長(海外委員)の福喜多俊夫氏で、出身は現カナカで、半年間、ハワイの日米経営科学研究所(JAIMS)に留学後、海外事業課長として、発泡樹脂の米国工場建設の為、3年間ニューヨークへ長期出張。帰国後はアジア担当となり、カナカの多くの海外加工工場の設立に従事。1995年～2001年までは、子会社のイーピーイー・インターナショナル株式会社に取締役として出向し、アジア諸国(シンガポール、タイ、マレーシア、台湾、香港、中国、フィリピン)に設立した加工・販売会社の経営指導に従事。2002年カナカ定年退職後、香港資本の順利包装集団の総裁として2012年3月まで、10年間上海市に在住し、東莞、上海、蘇州、無錫工場の経営に専任。2012年3月に同社総裁を退任し、董事(取締役)の仕事に従事。一方、この総裁の10年間に、同時に(財)海外職業訓練協会の国際アドバイザーとして、中国進出日系企業の経営支援、駐在員のキャリアコンサルティング等にも従事。筆も立ち、弁も立つ、その道では有名な中国ビジネスのコンサルタントです。

やや紹介が長くなりましたが、その理由は、今後この京大東アジアセンターニュースレターに「上海街角インタビューシリーズ」を月に1～2本のペースで寄稿いただく予定の方だからです。ちなみに今週号から執筆いただきますが、第1回目のテーマは「中国の夢」です。こちらも乞うご期待！です。

以上二つをまとめますと、今後は、ASEAN10カ国とバングラデシュを中心に小島協力会副会長に、中国情報は主にこの福喜多OMA副室長に「上海街角インタビューシリーズ」として、現地中国人や現地進出日系企業関係者への主要テーマ毎のインタビューを交えた諸報告を寄稿していただく予定です。この他マレーシア・シンガポール・フィリピン視察報告を2度に亘り寄稿いただきました同じく社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長の喜多忠文氏(元パナソニック社員、香港副社長2年、広東省順徳の広東松下エコシステムズ社長5年、龍谷大学非常勤講師、中国佛山市駐日本代表事務所所長、中国佛山市榮譽市民)等にも、折に触れ寄稿していただく予定です。更に、京大経済学研究科の運営委員の教授・准教授方にも折に触れご寄稿いただく予定です。会員の皆様方もどうかご遠慮なく、どしどしご寄稿下さいます様、お願い申し上げます。

## 「ソーシャル・ビジネス」は貧困撲滅の切り札か

24. SEP. 13

中小企業家同友会アジア情報センター代表

東アジアセンター外部研究員(協力会副会長)

小島正憲

貧困撲滅は人類の願望であり、古来、その手法をめぐって幾多の思想が生起してきた。

### 1. 共産主義思想

19世紀中葉、ヨーロッパに共産主義思想が、貧困にあえぐ労働者の救済を掲げて、颯爽とデビューした。創始者のマルクスは人間社会を、性悪な資本家階級と性善な労働者階級に2分化し、それを反目・対立させ戦わせた。共産主義思想は、またたくまに虐げられた労働者大衆の心を獲得することに成功した。その力を背景に、レーニンはボリシェヴィキを率いてロシア革命に成功した。また毛沢東は労農紅軍を率いて中国革命を成就させた。共に貧困撲滅を掲げる共産主義思想を錦の御旗として担いだ。ロシアにも中国にも、性善な労働者の天国が出現し貧困が撲滅され、その成果は全世界に輸出されるはずだった。しかし結果として、共産主義思想は世界から貧困を撲滅できなかった。それらの国々は、時の経過と共に、社会が性悪な労働者たちにより牛耳られるところとなり、貧困が蔓延する悪しき資本主義に逆戻りしてしまった。それどころか、共産主義思想は従来の民族対立、宗教対立などの上に、新たに階級対立を加え、さらには人民大衆を強引に2分化し対立させ戦わせ、社会に大きな混乱をもたらすことになった。革命後の中国では毛沢東が、人民大衆を「紅五類」と「黒五類」に2分化し戦わせる文化大革命を起こし、多くの人民大衆の生命を奪った。さらにカンボジアでは波尔・ポトが、国民を旧人民と新人民に2分化し、旧人民に新人民約200万人を撲殺・餓死・病死させた。これが人間を、性悪な資本家階級と性善な労働者階級に、2分化した共産主義思想の無残な帰結である。

### 2. マイクロ・クレジット

20世紀末、バングラデシュでムハマド・ユヌス氏が、「マイクロ・クレジット」という手法を使い、新たな貧困撲滅行動に立ち上がった。しかしこの実践活動も、貧困撲滅を達成することはできなかった。最近の研究では、マイクロ・クレジットはバングラデシュで5%ほど貧困者を減少させ、貧困撲滅の方向に一定の効果はあったが、貧困者を一掃するというには程遠い状況にあるとされている。ユヌス氏はバングラデシュの貧困女性に少額の資金を貸し付け、小規模事業を起こさせることによって、彼女たちの自立、すなわち貧困からの脱出を手助けしようとした。しかしその手法には限界があったのである。

ユヌス氏は、グラミン銀行を立ち上げ、バングラデシュの貧しく虐げられた女性に、独創的な手法で、少額の資金を貸し付けた。ユヌス氏は、彼女たちに5人のグループを組ませ連帯責任を負わせ、地域ごとに勉強会を頻繁に行い、事業や借金返済のための教育の機会とした。また貸し付けた資金やその利息の回収には、貸し付け開始1か月後から、早々と彼女たちの元に回収人を派遣し、取り立てを行うことにした。これらの経費を賄うため、グラミン銀行の年利はおおよそ16%から20%と高く設定されている。それでも返済率は97%と驚異的な水準を保っており、2011年時点で、借り手の女性の数は835万人となっている。この実績が評価され、ユヌス氏は2006年、ノーベル平和賞を受賞することとなり、その手法は世間の多くの識者の高く評価するところとなった。

しかしその手法は、しょせん借金を奨励するものであり、やがては金融資本主義に取り込まれる運命であった。その後、世界に「マイクロ・クレジット」の名称を利用した高利貸し業者が暗躍する結果となり、今年に入ってインドでは過剰貸し付けが問題化し、政府が規制に乗り出したのも、その必然的な結果である。

国家も会社も家庭も、無借金が原則である。たとえ「マイクロ・クレジット」という美名の下でも、借金を奨励する思想を肯定することは誤りである。ユヌス氏は、貧しく虐げられた女性に少額資金を貸し出した。そこには性善な人間への多大な期待があっただろうが、すべからず人間は2重人格であり、多くの人間は性悪な面も持ち合わせており、いったん借金をしてしまったら返済を渋るのが常である。日本にも、「借りるときの恵比寿顔、返すときの閻魔顔」という俚語があるほどである。したがってユヌス氏も、それを防ぐために幾多の手法を用い、結果として年利を高く設定せざるを得なかったのである。そのためグラミン銀行をはじめとするバングラデシュの「マイクロ・クレジット」組織は、バングラデシュから貧困撲滅を達成できなかった。バングラデシュはいまだに世界最貧国の一つである。

### 3. ソーシャル・ビジネス

21世紀に入り、ユヌス氏は「マイクロ・クレジット」での貧困撲滅をあきらめ、「ソーシャル・ビジネス」という新たな思想を繰り出し、貧困の撲滅に再挑戦している。このユヌス氏の実践的発想に、私は驚くと同時に最大限の敬意を払うも



のである。しかし残念ながら、その「ソーシャル・ビジネス」もまた、「マイクロ・クレジット」同様に、大きな思想的な欠陥を持っている。ユヌス氏の提唱する「ソーシャル・ビジネス」は、現在、日本を含む世界各国で、大きくもてはやされている。多くの識者が、その思想的な欠陥について理論的に追求することなく、ユヌス氏の名声に便乗し、「ソーシャル・ビジネス」を褒めそやしているのには、驚くばかりである。

ユヌス氏の提唱する「ソーシャル・ビジネス」の眼目は、「投資家は、投資額のみを回収できる。投資の元本を超える配当は行わない」という点にある。つまり「ソーシャル・ビジネス」に投資する資本家は、その投資に対する配当を受け取ることができないということである。これは資本家に金儲けをあきらめさせるということであり、資本家としての地位を自主的に放棄させようとするものである。「マイクロ・クレジット」で性善なる一般大衆に望みをかけ、性悪な一般大衆の壁に跳ね返されたユヌス氏は、今度は性善なる資本家に多大な期待をかけることにしたのである。このユヌス氏の大胆な提唱を額面通りに実践すれば、それは資本家の止揚・消滅に行き着くことになる。

ユヌス氏は若いころ、マルクス経済学を学んだといわれており、それは「マイクロ・クレジット」や「ソーシャル・ビジネス」の発想に、大きな影響を与えている。その反面、ユヌス氏はマルクスの資本家と労働者を2分化する思想から逃れられないでいる。マルクスは人間を資本家階級と労働者階級に2分化したが、これは大きな誤りであった。そもそも人間は2分化できないし、また2分化してはならない。人間を2分化して戦わせれば、ポル・ポトの悲劇に行き着くことは歴史が証明済みである。しかしながらユヌス氏も含めて、現代社会はこの誤ったマルクスの共産主義思想から脱皮できないでいる。

ユヌス氏の「ソーシャル・ビジネス」が完全実施され、それが社会の主役になった場合、社会には純粋な資本家は存在しないことになる。配当を受け取らない投資家という存在は、資本家と呼ぶことはできないし、それらの投資家たちの資本はやがて枯渇し、彼らが資本主義社会では存続できなくなるのは必定である。そして資本主義社会から資本家のみが止揚されれば、社会は労働者天国となり、共産主義に逆戻りしてしまうことになる。かくして資本家と労働者を2分化したまま、資本家のみを止揚しようとする「ソーシャル・ビジネス」という思想は、珍妙な結論を迎えることになるのである。

現代では資本家と労働者は、相互転化が可能であり、今や労働者の失う物は鉄鎖のみではなく、彼らの前には脱サラして資本家になる道も大きく開けている。また資本家も経営に失敗すれば、たちまち労働者階級に仲間入りすることになる。現代社会において、もっとも必要なことは資本家階級と労働者階級を2分化した共産主義思想を超克することである。現実の社会においては、人間が存在しているのみであり、資本家階級と労働者階級の存在の想定は虚構である。現代社会はマルクスの亡霊と絶縁しなければならない。ユヌス氏は「ソーシャル・ビジネス」で、大胆に資本家の止揚を提唱した。今や、それをさらに思想的に発展させ、資本家と労働者をともに止揚する思想を誕生させねばならないのである。そして貧困撲滅を達成せねばならない。

#### 4. 社会実験

学問は机上の空論であってはならない。自然科学はその理論が実験で試される。社会科学も、その理論は社会実験で試されなければならない。共産主義思想と革命という社会実験は人間に悲劇をもたらしたが、それでも試行はなされなければならない。その点で、ユヌス氏の相次ぐ社会実験は、きわめて高く評価されるべきである。

現在、私はバングラデシュとミャンマーで、私財を投じて、「ソーシャル・ビジネスの発展型」を追求・試行している。それは資本家階級と労働者階級の止揚・再統合であり、共産主義思想の超克を目指す新思想・新理論の社会実験である。性善な資本家と性善な労働者に依拠し、性悪な資本家と性悪な労働者を駆逐する社会実験であり、2重人格の人間を統御するシステムの試行である。もちろん宗教対立・民族対立・男女対立も止揚することを志向し、同時に貧困撲滅を達成しようとする社会実験でもある。しかしながら、このように私が大言壮語してみても、資本主義社会は非情であり、わが企業があえなく倒産し、私のプロジェクトも空理空論に終わる可能性が大である。そしてなによりも、結論を待たずして私自身の余命が尽きるかもしれない。なお今のところ、この馬鹿げたプロジェクトの思想的後継者はいない。

以上

\*\*\*\*\*

---

## 上海街角インタビュー①

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）  
順利包装集团董事长（在上海）  
福喜多技術士事務所所長  
福喜多俊夫

### 「中国の夢」

習近平総書記は、国家主席としての初めての演説で「中国の夢」という言葉を9回も使ったと報じられている。また、国際会議の場でも「中華民族の復興という“中国の夢”を実現する」と演説した。つい最近の新聞では「中国の夢」が重要思想に位置付けられる可能性があるとの報じられた。中国の出来事をフォローしている私にとって「中国の夢」という語は馴染み深いものとなり、中国は「アヘン戦争前（1840年頃）には世界の富の24%を有していた経済大国であった（激動するアジアを往く：桜美林大学、川西重忠教授）」わけだから、中華民族の偉大な復興は中国人の願い、即ち『中国の夢』なのだろうと単純に思っていた。

しかし、中国人の友達は誰もこの半年、「中国の夢」について触れたことがない。果たして上海の人々は「中国の夢」についてどう思っているのか興味をもち、インタビューを試みた。

なお、今後インタビューに際しては、対象者が特定の人に偏らないよう筆者の知人、勤務先同僚、取引先はむろん、広く上海市内の大学・公園・街角等で出会った一般の中国人老若男女の意見をバランスよく吸い上げるよう留意するつもりであるが、テーマによってはインタビュー者が偏ることもあるのでご容赦頂きたい。

#### ①21歳 大学生 女子

私の友達は誰も「中国の夢」なんて話題にしていない。私もよく知らない。  
私の夢はカナダ留学。これまでアメリカもカナダも行ったけど、カナダが好き。  
カナダでITの勉強がしたい。

#### ②21歳 大学生 男子

習総書記の「中国の夢」、もちろん知っているよ。世界中に「中国の夢」を発信して欲しい。僕は国家公務員志望だけど、今の中国はまだ一流国ではないと思う。中国を世界の一流国にするのが僕の夢。もちろん高給がもらえるようになりたいよ。

#### ③24歳 独身男性 中国貿易企業勤務

「中国の夢」は知っているけど、「自分の夢」の方が大事。この会社にも先が見えないから転職するつもり。民間企業は自由度が高いだろうと思って入社したけれど、幹部は自分のことしか考えていない。僕も自分の適職が見つかるまで夢を追うよ。

#### ④28歳 既婚女子 日系会社勤務

「中国の夢」なんて難しいことをいわれてもよくわからない。習主席が言っているのですか？ 「国家の夢」はよくわからないけれど、私の夢は「ダンナも私も給料が上がり、物価はあまり上がらず、平和で家族が楽しく暮らせること」です。

#### ⑤25歳 既婚女子 税関職員

国が豊かになり、貿易が増えれば、国家の税収が増え、更に国が豊かになる。そして、社会資本を充実させる原資が増えるから国民への配分も増える。中国は経済面でも、防衛面でももっと強くないといけない。経済だけで永遠に栄えた国は無い。習主席の「中国の夢」、「中華民族の復興」は大賛成だ。

#### ⑥44歳 既婚女子 日系企業総経理

習主席のいう「中国の夢」はよくわからないけれど、これまで中国は世界の先進国（日本を含めて）から軽く見られていたと思う。日本人がよく言う「中国は世界の工場」も中国は組立屋だという蔑視が感じられた。私にとっての「中国の夢」は世界から尊敬される技術立国になり、肩をはらずに先進国の仲間入りをすることだ。

⑦35 歳 既婚男子 中国企業総経理

「中国の夢」はよく知っている。夢を国民に語りかけることはいいことじゃないか。

ただ、今までの報道を見る限り、国民に夢を語り掛けるというより、もう少し政治的なんじゃないかな。

⑧45 歳 既婚男子 日系企業経理

習総書記が言う「中国の夢」はよく知っている。「中華民族の復興」も言っている意味はよくわかる。中国は阿片戦争以降後進国に落ちぶれてしまったが、清の時代までは世界の最先端を走っていたはずだ。しかし、一般国民がその自覚をもっていたかどうかは別の話だ。だから、一般国民に「中国の夢—中華民族の復興」といっても、ちょっとピンとこないのではないかな。鄧小平さんが改革開放を掲げたとき「中国は中国人も世界の人も自由に出入りできる開かれた国にしよう」といったのだが、ある人たちが急ぎすぎた。僕の夢は「鄧小平の掲げた改革開放」を実現することだ。

それほど多くの人に話を聞いたわけではないが、どうやら若い人は「中国の夢」にはあまり関心がなく、スローガンそのものを知らないか、あるいは聞いたことはあるが中身はよくわからない。自分の夢は家族が豊かな暮らしが出来ること。小市民的な幸せに「夢」を抱いているようだ。ただ、公務員を目指す（あるいはすでに公務員になっている）若者は国の発展と自分をきちんと結び付けて考えている。また、知識層（大学卒、総経理クラス）は習総書記の「中国の夢」をフォローしているが、彼らの受け取り方は「国民に語り掛ける夢」というよりはもう少し政治的で、「国際社会での地位の向上、海洋進出の夢」「アメリカに追いつき追い越せ、少なくとも対等になりたいという夢」「国際的な場で国内向けにアピール（尖閣に海監の船を侵入させているのは、日本への牽制もあるけれど国民向けのアピールでもある）」と捉えているように感じた。

それではこれまでのキャンペーン、鄧小平の「先富論」、江沢民の「三つの代表」、胡錦濤の「科学的発展観」と比べて認知度はどうか。

「先富論」は 40 歳以上の人は殆ど知っており、意味も理解している。「三つの代表」と「科学的発展観」になると、聞いたことはあると答える人でも意味を理解している人は少ない。「中国の夢」も一般の中国人には習近平総書記の意図するところがよくわからないというのが実感ではないだろうか。「先富論」にはかつての「アメリカンドリーム」のように“個人が頑張ればこの先よくなる”という単純明快さがあったが、共産党の重要思想に位置付けられようとしている「中国の夢」には単純に受け取れないイデオロギー性があり、一般庶民には“雲の上の夢”なのであろうか。普通の中国人はアパートを持ち、結婚して子供を授かり、子供を大学に通わせ、小市民的な豊かさに夢を馳せる。しかし、習総書記の「中国の夢」は「中国という国」の夢であって、「中国人」の夢とは少し違うような気がする。

参考：

\* 三つの代表

江沢民前総書記が 2000 年 2 月、広東省視察時に行った演説のなかで、中国共産党は、「先進的な社会生産力の発展」「先進的文化の進むべき方向」「広範な人民の根本的利益」の三つを代表していると述べた。これが「三つの代表」論で江沢民在任中は全国的範囲で「三つの代表」論の学習運動が高まった。

\* 科学的発展観

胡錦濤総書記が 2003 年に最初に唱えた「科学的発展観」は、第 17 回党大会で共産党指導原理として党規約に加えられた。中国共産党の指導原理はこれまで、マルクスレーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、三つの代表の四つであったが、「科学的発展観」が追加された。これも「三つの代表」論と同様難解な理論である。

中国総合研究センターの寺岡伸章氏は胡錦濤の「科学的発展観」とはいったい何なのか（中国科学技術月報 第 16 号 2008.1.20）の中で、陳中央党校教授の講義を紹介している。胡錦濤総書記が科学的発展観を唱えたきっかけは 2003 年春の SARS 事件で、SARS 事件での対応の遅れは中国人の意識の遅れであり、この失敗を教訓とし、社会発展の突破口を図る必要があると考えた。社会建設、文化建設などを含む全面的建設の必要性を感じた。発展とは何か。何を発展させるのか。その答えは社会主義の発展であり、党の建設であり、近代化の中で総合国力を上昇させることである。誰のための発展か、誰による発展か、誰がそれを享受するのか。人民である。人民による、人民のための人民の発展である。現状では矛盾や格差がある。解消しなくては大きなことになる。持続可能な発展、人と自然との関係、地域の格差を是正しなくてはならない。科学的発展観は次の四つの特徴を有する。

- ① 発展が第一である
- ② 人間本位であるべき



③ 全面的調和により持続可能な発展を図るべき

④ 全体の利益を考えるべきである

寺岡氏は「科学的発展観」にはイデオロギー色はないという。先進民主主義国社会建設手法と差異はない。

以上

\*\*\*\*\*

## 【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	1.9	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2											
6 月	9.5	15.1	17.7	6.4	11.8	223	17.9	19.0	6.6	2.8	15.9	15.2
7 月		14.0	17.2	6.5	27.7	315	20.3	23.0	2.7	19.8	14.7	15.0
8 月		13.5	17.0	6.2	33.4	178	24.4	30.4	6.4	11.1	13.6	14.8
9 月	9.1	13.8	17.7	6.1	27.3	145	17.0	21.1	-3.5	7.9	13.1	14.3
10 月		13.2	17.2	5.5	34.1	170	15.8	29.1	-0.6	8.7	16.7	14.1
11 月		12.4	17.3	4.2	21.4	145	13.8	22.6	-12.9	-9.8	16.2	14.0
12 月	8.9	12.8	18.1	4.1	5.7	165	13.3	12.1	-15.4	-12.7	17.3	14.3
2012 年												
1 月				4.5	25.3	273	-0.5	-15.0	4.6	10.8	16.6	14.8
2 月		21.3		3.2	—	-315	18.3	40.3	38.7	-0.9	17.8	15.0
3 月	8.1	11.9	15.2	3.6	21.1	53	8.8	5.4	-6.5	-6.1	18.1	15.7
4 月		9.3	14.1	3.4	19.2	184	4.9	0.4	-26.1	-0.7	17.5	15.4
5 月		9.6	13.8	3.0	21.0	187	15.3	12.7	-6.1	0.0	17.9	15.7
6 月	7.6	9.5	13.7	2.2	21.8	317	11.3	6.3	-16.3	-6.9	18.5	16.0
7 月		9.2	13.1	1.8	20.6	251	1.0	5.7	-7.8	-8.6	18.9	16.0
8 月		8.9	13.2	2.0	19.4	267	2.7	-2.7	-12.7	-1.4	18.4	16.1
9 月	7.4	9.2	14.2	1.9	23.1	277	9.8	2.3	-6.4	-6.8	19.8	16.2
10 月		9.6	14.5	1.7	22.4	320	11.5	2.2	1.8	-0.2	14.6	15.9
11 月		10.1	14.9	2.0	20.0	196	2.8	-0.1	-8.7	-5.4	14.5	15.7
12 月	7.9	10.3	15.2	2.5	18.8	316	14.0	6.0	-7.8	-4.5	14.4	15.0
2013 年												
1 月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2 月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3 月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4 月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5 月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6 月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7 月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8 月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、( ) 内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家統計局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。